

高齢者の「最近の若者」と「昔の若者」イメージの比較

Pongampai Korapin

本研究は、最近の若者効果を実証することを目的として、高齢者が持つ「若者」、「昔の若者」、「最近の若者」へのイメージの違いを検討した。本研究の仮説は、「昔の若者」、「若者」、「最近の若者」の順に肯定的に評価されるということである。

イメージの測定にはSD法を用い、19の形容詞対への7段階評価によって、「若者」「昔の若者」「最近の若者」のそれぞれに対するイメージを尋ねた。尋ねるイメージの対象によって「若者群」、「昔の若者群」、「最近の若者群」の3群に分けてインターネット調査を実施した。「若者群」では142名（男性76名、女性66名、平均年齢 74.73 ± 1.59 歳）、「昔の若者群」では96名（男性48名、女性48名、平均年齢 74.67 ± 1.67 歳）、「最近の若者群」では44名（男性20名、女性24名、平均年齢 74.98 ± 1.75 歳）が分析対象となった。

「昔の若者」のイメージでは「無礼—礼儀がある」の評価が最も肯定的であり、「貧しい—豊かな」と「さわがしい—静かな」の評価が最も否定的であった。「若者」のイメージでは「機械に弱い—機械に強い」の評価が最も肯定的であり、「経験が浅い—経験が豊富」の評価が最も否定的であった。「最近の若者」のイメージでは「若者」と同様に「機械に弱い—機械に強い」の評価が最も肯定的あり、「経験が浅い—経験が豊富」の評価が最も否定的であった。

形容詞対への評価について群間比較をした結果、本研究の仮説に対して、3つの条件の中で「昔の若者」のイメージが最も肯定的であるという点は支持されたが、「最近の若者」のイメージと「若者」のイメージでは差がなく、前者が後者より否定的であるという点は支持されなかった。

イメージの男女差を検討した結果、「昔の若者」群では、「つめたい—あたたかい」への評価のみ男性よりも女性の方が有意に高かった。「最近の若者」群では、「依存的一自立」、「つめたい—あたたかい」、「孤独な—にぎやかな」、「わがまま—素直、従順」、「経験が浅い—経験が豊富」への評価で男性よりも女性の方が有意に高かった。一方、「若者」群ではいずれの形容詞でも有意な男女差はみられなかった。

全ての群でイメージと関連していたのは、若者への関心と若年者に関する否定的態度であった。それに加えて、「若者群」では若者との会話に関連していた。「最近の若者群」では若者との会話、イメージした若者の年齢が関連していた。

本研究の結果から、日本においても、自分自身の若かった頃をより肯定的に評価し、現代の若者をより否定的に評価するという「最近の若者効果」が観察されることが示された。一方で、「一般的な若者」と「最近の若者」への評価の間には差がみられず、本研究の対象者にとって「一般的な若者」への評価には「最近の若者」への評価が反映されていた可能性が考えられた。今後は、イメージの測定に使用する形容詞対のさらなる検討を進めるとともに、高齢者が持つイメージと若者に対するエイジズムの関連性について検討していくことが期待される。（臨床死生学・老年行動学）